

第7回「専門性は教えない」

巢鴨太鼓組鼓友 鈴木大介さん

鼓友と鴨台盆踊りの関わり合いについて聞いてみました！

大正大学と大正大学の学生が、地域の方と連携して活動をするために必要なことは何かを探る連載「おうだい3meets」。第7回は、大正大学の鴨台盆踊りで太鼓を披露してくださっている巢鴨太鼓組鼓友の会長を務めていらっしゃる鈴木大介さんに、鼓友の活動内容、鼓友と鴨台盆踊りの関わりについてお話を聞きました。

お話しいただいた人

鈴木 大介さん



巢鴨太鼓組鼓友6代目会長。鴨台盆踊りや、巢鴨納涼盆踊り大会にて、太鼓の演舞をされている。趣味は太鼓や神輿を担ぐこと。学生時代はスノーボードやサーフィンに熱中。

インタビュアー



五十嵐 泰一

仏教学部仏教学科4年。鴨台盆踊りの運営に携わるのは今年が初めて。趣味は自転車で走ったり読書をする事。

1. 鼓友について



本日インタビュアーを務めさせていただく、五十嵐と申します。初めに、鼓友さんの活動はいつから始まったんですか？



そうですね。昭和60年代に始まった巢鴨納涼盆踊りと同じ時期に鼓友も発足しました。私は小学校4年生の頃から子どもとして参加しているんですけど、最初の頃は20人ほどしかいませんでした。しかし、松宮さん（第6回おうだい3meetsを参照）という方が、会長になられてから、子どもたちも鼓友の会に加えようという話になりまして、そこから、参加者が、次々に増えていったんです。今では、子ども30名大人50名 計80名という大きい団体になりました。



そうだったんですね。大人から、子どもまで、いろんな方が所属しているんですね。普段はどんな活動されているのですか？



毎週金曜日に、練習を行っています。ただ、80人が所属するととても大きい団体なので、少し時間帯をずらしたりして行うなど工夫しています。練習では、理屈で教えるのではなく、子どもたちに純粋に太鼓を楽しんでもらいたいので、「だるまさんが転んだ」を取り入れているんですよ。



「だるまさんが転んだ」ですか？

驚きますよね。「だるまさんが転んだ」のルールが、構えの練習で使えるんです。「だるまさんが転んだ」の遊びをやる際に、最後に固まるポーズを構えの形にして行っています。そうすると、子どもたちは勝手に遊びながら、自然に構えのポーズをマスターしていく。これを繰り返すことで、息がみんな合うようになるんです。



鈴木さん

実は、太鼓で大事なのは息を合わせることで、つまりはチームワークなんです。構え一つも合わせないといけない。だからこそ、息を合わせた練習をしているんですよ。



五十嵐

面白い練習ですね！！他にも、ユニークな練習はあるんですか？

そうですね。他には大縄跳びをさせています。みんなで縄を飛ぶので、ここでも、息を合わせる練習ができるんですよ。そういった感じで、遊びながら太鼓をマスターしていくという練習をしています。



鈴木さん

あとは、本番で舞台に立てるメンバーは、練習に多くきてくれた子を優先しています



五十嵐

それでは、技術力の差が出てしまったりしませんか？

他のスポーツだとそうかもしれませんが、太鼓は違うんです。太鼓演奏の中でも特に、息を合わせて一つの音を奏でるものなんです。だからこそ、何度も練習にきて、一緒に練習をしている人たちじゃないと、一つの音は奏でられないんですよ。そういうことがあって、練習に多くきてくれた子を優先して、本番舞台に立てるメンバーを選んでいきます。



鈴木さん



鼓友の練習の様子



五十嵐

なるほど、そうだったんですね。練習に多く出れば本番で舞台に立てるって、皆勤賞を目指す感覚と似ていますね。だから、練習に行こうとやる気になりますね。



鈴木さん

そうなんです。みんな、張り切って練習に来てくれるので、本当に嬉しいです。他にも、**鼓友では練習をはじめる前に、準備体操をしてもらってますけど、その際に子どもたちに当番でリーダーをやらせてもらっています。**



五十嵐

当番制のリーダーですか？



鈴木さん

そうです。リーダーを当番制で行うので、みんな、受動的に行うだけでなく、**リーダーになれることでより積極的になる**んですよ。子どもたちは、学校では学級代表に立候補をするくらい、積極的な子に育ってくれるんです。



五十嵐

すごいですね。リーダーシップが養われているんですね。



鈴木さん

そうだと思いますよ。太鼓はみんなでチームワークを合わせるものが何よりも大事ですからね。でも、私は、太鼓を好きになってもらいたいで、あまり専門的なところは教えないんですよ。



五十嵐

専門的なことは練習をしないんですか！？



鈴木さん

驚きますよね。でも、スポーツの世界もそうですが、プロ並にうまくなれるのは、ほんの一握りです。なので、専門的なことをやってしまうと、途中で挫折して太鼓が嫌いになってしまう子も出てきてしまうんです。だからこそ、私はあえてそこを教えずに太鼓を好きになってもらえるような指導をしているんです。でも太鼓を練習するうちに、もっとうまくなりたい、難易度高い技に挑戦したいと言われればそれに応えます。このように鼓友では、それぞれのレベルに合わせた指導をして、みんなが太鼓を好きでいてほしいなと思っています。



五十嵐

なるほど、それぞれのレベルに合わせてか…。ひとりひとりの個性を大切にされていていらっしゃるんですね。



はい。また、子どもたちが大きくなって受験などで忙しくなると、鼓友の活動に参加できなくなってしまうことってあると思うんですよね。そんな時でも退会という形ではなくて、休会という形にしているんですよ。



なぜ退会にせずに休会にされていらしゃるんですか？

例えば、太鼓から離れてしまっても、20代、30代と大人になって、また太鼓をやりたくなったら、参加できるようにしていきたいなっているんですよ。私もそうですが、太鼓ってストレス発散になるんですよね。だから、大人になって、ぜひストレス発散でも良いからいつでも戻ってこれるような居場所で在りたいって思ってるんです。



そうなんです。鼓友がまるで、故郷のような、いつでも帰れる場所なんて素敵ですね。



ありがとうございます。



インタビューの様子

2. 多くの世代を巻き込む団体へ！！



次に、鼓友さんは、大正大学の鴨台盆踊りに参加されていますが、他の盆踊りと比べて違いがあったりしますでしょうか？



そうですね。学生さんが主体になっているので、すごく元気がいいなど。あと、やはり学生さん同士で連携して行っているので、チームでまとまりがあっていい盆踊りだなと感じていますね。



鴨台盆踊りの様子 (2019年)



ありがとうございます！



ただ、強いて言うなら、**大学生だけでなく、小さい子どもからお年寄りまで、あらゆる年齢層を巻き込んでほしい**なと思いますね。



巻き込む、ですか？



鈴木さん

そうです。学生さん主体なので、チーム一丸となっていて良いのですが、どうしても、**鼓友と学生が関わる機会がなかなかない印象**がありますね。例えば、**他の盆踊りでは、来てくれた方に鼓友で使っている太鼓を叩いてもらえる体験会**をやって地域の方と交流できる場を設けているんですよ。



五十嵐

なるほど、太鼓を実際に叩けるのは面白いですね。



鈴木さん

これが、毎回好評なんですよ。だからこそ、**鴨台盆踊りのときだけではなく、他にも太鼓の体験会などを企画して、学生や鼓友の垣根を超えて一体になれる盆踊りを目指してほしい**なと思います。



五十嵐

確かに、そうですね。私も太鼓叩いてみたいなって思いました。



鈴木さん

是非！ 叩きに来てください。



五十嵐

ありがとうございます。叩きに行きます！

取材を通して感じたことは、ひとりひとりの個性を大切にすることです。よく私たちは、スポーツでも、「県大会で優勝する」とか、「全国大会出場する」のような、大会に優勝するために、専門的なことを特訓し練習をし、目標に向かって一致団結をしなければならないという価値観のもと、練習をするのが当たり前だと思ってきました。しかし、鈴木さんのお話を聞いていると、ひとりひとりの個性が違うからこそ、目標もそれぞれ違って良いのだし、またそれを尊重してあげることが大事にしてあげることこそが重要だと、今回お話を聞いて気づきました。

記事 仏教学部仏教学科仏教学コース4年 五十嵐 泰一
お話を聞いた日 2021年7月9日